

令和 8 年 1 月 21 日

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校団コード（代表者校団の市費コード）
751734
選定番号
154

代表者	校 園 名：	瓜破東小学校
	校団長名：	新井 寿栄
	電 話：	6708-0108
	事務職員名：	大石 詩織/萬谷 飛鶴
申請者	校 園 名：	瓜破東小学校
	職名・名前：	校長 新井 寿栄
	電 話：	6708-0108

令和7年度 「がんばる先生支援」 報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	子どもも大人もチームうりひが ～かがやけ！みんなが主人公～			
3	研究目的	【本市がめざす基本理念：すべての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立すること。グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となること。】 1. 特別活動は「なることによって学ぶ」ことを方法原理としているため、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事において身に着けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより、資質・能力の向上につなげるのかということを意識した指導方法の研究を進める。 2. 特別活動は各教科等の学びの基盤となるため、教育課程全体における特別活動の役割や機能を明らかにしていく。 3. 特別活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MS Word 9.5ポイント） 4月8日【研究企画会】研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討した。 【研究推進委員会①】・昨年度までの成果と課題をふまえ、研究内容の焦点化を図るとともに大阪府小学校教育研究会「学校行事部、学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部」の昨年度の研究紀要を参考にして、本校の4チームの年間計画を立案した。・研究のテーマに沿った児童アンケート、教員アンケートを作成した。 【研究全体会・全体研修会①】・年間計画、計画の進め方の共通理解を図った。 5月15日【授業研究会①】「6年1組 学活(1)」 「55年後のうりひがまつりのお店を考えよう」 【研究全体会・全体研修会②】「学級活動について」講師 中野小学校 牧野美奈子 校長 5月下旬【研究推進委員会②】児童アンケート・教員アンケートの実施・分析 6月16日【授業研究会②】「5年1組 学活(1)」 「キャンプファイアでしたいことをきめよう！」 【授業研究会③】「5年2組 学活(1)」 「キャンプファイアでしたいことをきめよう！」 7月3日【授業研究会④】「4年1組 学活(1)」 「ハッピーエンド会をしよう！」 【授業研究会⑤】「4年2組 学活(1)」 「1学期おたのしみ会をしよう！」 8月21日【全体研修会③】「学級活動について」講師 福島小学校 土井一弘 校長 8月26日【全体研修会④】「全国特別活動研究協議会 東京大会」伝達講習会 9月17日【全体研修会⑤】「クラブ活動について」講師 大江小学校 樋口義雄 校長 10月20日【授業研究会⑥】「1年1組 学活(2)」 「あいさつで にこにこのはなを さかせよう！！」 10月下旬【研究推進委員会③】児童アンケート・教員アンケートの実施・分析 11月4日【全体研修会⑥】「がんばる先生支援」研究発表会に向けての検討会 11月21日【「近畿特別活動研究協議会・学校行事研究協議会京都大会参加」】 12月2日【全体研修会⑦】「近畿特別活動研究協議会・学校行事研究協議会京都大会」伝達研修会 12月10日【「がんばる先生支援」研究発表会】 講師 土井一弘 福島小学校長・牧野美奈子 中野小学校長・スクールアドバイザー 中村倫子先生 「5年1組 学活(2)」 「クラスをよりよくするピースを増やしていこう！」 「5年2組 学活(1)」 「仲力パワーアップ大作戦！ 思い出に残るごっこ会にしよう！」 「6年1組 学活(3)」 「中学生に向けて、なりたい自分に近づこう」 1月20日【授業研究会⑦】「2年1組 学活(2)」 「スイッチオン大作戦～時間を守ろう～」 【授業研究会⑧】「3年1組 学活(2)」 「当番活動を見直して、自分とクラスをレベルアップ大作戦！！」 1月下旬【研究推進委員会④】児童アンケートの実施・分析 2月中旬【研究推進委員会⑤】・大阪府小学校学力経年調査の結果分析 ・教員アンケートの実施・分析 3月4日【研究全体会・全体研修会⑧】次年度に向けて、本年度の成果と課題の共通理解を図る			
5	研究発表等の日程・場所・	日程	令和 7 年 12 月 10 日	参加者数	約 50 名
		場所	瓜破東小学校 5年1組・2組・6年1組教室・多目的室		

	参加者数	備考	
--	------	----	--

6	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力」の育成および「教員の資質や指導力」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>様々な集団活動や体験活動の場を工夫することにより、児童がよりよい人間関係を構築し、豊かな人間性や社会性を育むことができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校行事、児童会活動の事前・事後において、児童の変容が明確となる「がんばりカード」や「ふり回りカード」の作成と国が示す「キャリアパスポート」との融合した活用を図る。「がんばりカード」や「ふり回りカード」と検証し、児童アンケートにおいて肯定的な回答を1ポイント上昇させる。特に積極的肯定回答の数値の増加をめざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>教育活動全般において、各教科・領域とのつながりを意識した特別活動の取り組みができた。その中で、事前・事後の活動において「がんばりカード」や「キャリアパスポート」を積極的に活用することができた。児童アンケートにおいては、学校行事・児童会活動において自分の役割を進んでしていると回答した児童の割合が90%を超えており、昨年度から10ポイント以上肯定的会回答が増えた。実践を重ねるうえで、自由記述欄には高学年が「低学年のために頑張りたいけれど、なかなかうまくできない。どうやったら説明とかわかりやすくできるようになるか考えたい。」など、責任感の芽生えとともに、より高みを目指す子どもの姿も見受けられるようになったことは、大きな成果と考える。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>児童の実態や発達段階に応じた資料（議題、話合いの活動の進め方、活動内容等）を共有し、児童の課題解決力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》</p> <p>児童の「活動のふり回り」で話合い活動（話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、ひろめたりすることができていますか）について肯定的な回答を70%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>児童の「活動のふり回り」で話合い活動（話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、ひろめたりすることができていますか）について肯定的な回答は、1学期・2学期・3学期ともに80%を超えた。自由記述欄には、「自分たちが提案して話し合ったことが（学校行事で）実現できたときは、とてもうれしかった。」「縦割り班活動でホワイトボードを使うと、みんなの意見をまとめやすい。」など、話し合い活動に意欲的な児童が増えてきた。この児童の意欲向上に負けないように、教職員もより良い支援・指導の在り方を探るようになってきたことは、大きな成果と考える。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>集団活動や体験活動において「がんばりカード」や「ふり回りカード」「キャリアパスポート」を活用して、個のめあて・集団のめあてをもって活動し、自己評価や相互評価を行うことにより、主体的に学校生活に生かす態度を育てることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校行事の取り組みにおいて、児童の変容が明確となる「がんばりカード」や「ふり回りカード」の作成と国が示す「キャリアパスポート」との融合した活用を図る。「がんばりカード」や「ふり回りカード」を検証し、児童アンケートにおいて肯定的な回答を1ポイント上昇させる。特に積極的肯定回答の数値の増加をめざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>「がんばりカード」や「ふり回りカード」の作成において、各学級や各委員会・各クラブ活動からの意見（〇〇の行事は△△にしたい。など）が採用される場面が増えたことで、学校行事に対する児童の参画意識が高まっただけでなく、保護者・地域の注目度も高まった。また、児童の主体的に学校行事に取り組もうとする意欲を支えるため、教職員が一つ一つの学校行事を丁寧に見直すようになったことは成果と考える。具体例の一つとして、運動会で児童の提案で全校児童・教職員・保護者・地域等の参観者全員参加でフォークダンスを取り入れることとなり、非常に好評を博した。これらの経験もあり、各行事においての達成度を知るアンケートにおいて、昨年度より5ポイント以上の肯定的回答が得られた。</p>
---	-------	--

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果 4】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>話し合い活動における「適切な支援・援助のあり方」を工夫・改善することにより、子どもたちが課題を「自分事」としてとらえることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>児童の自己評価、相互評価で肯定的に回答する割合を70%以上にする。（進んで意見を発表できたか、友達の意見を聞いてかんがえることができたか等）</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>児童の自己評価、相互評価（進んで意見を発表できたか、友達の意見を聞いて考えることができたか等）で、1学期・2学期・3学期のいずれも80%以上が肯定的回答であった。昨年度より10ポイント以上の向上で、取り組みの大きな成果と考える。また、学級目標を達成するために適宜ふり返りと話し合いを重ねてきた結果、学級目標達成に向かって頑張っているという質問項目において、1学期・2学期・3学期のいずれも80%以上が肯定的回答であった。話し合い活動の課題を「自分事」としてとらえることができていると考える。</p>
6	研究全体を通した成果と課題	<p>【研究全体を通した成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>毎月「うりひが研究の日」を設定した。そこでは、4チームが今まで教師主導で行っていた取り組みに対して、児童が活躍できる場面を増やすためにはどうすればよいのかと各種活動を一から見直した。また、限られた時間を有効活用するためには、どのような支援・指導が必要なのかを話し合い、それを全体で共有してきた。活動後には、必ず成果と課題を話し合い必ず次に繋げようと努めてきた。一方で、児童が主体的に活動できるようにするためには、多大な時間を要する。また教師の力量が問われる。この点については、まだまだ研究を深めていく必要性を感じている。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>研究1年目は、児童が主体的に生き生きと活動するようになったが、話し合い活動のさらなる活性化が重要という課題が明確になった。そこで研究2年目は全学級で「学級活動」の研究授業に取り組んだ。研究授業では合言葉「は・か・せ」【は：板書の工夫→思考ツール、アイテム か：活性化（話し合い・雰囲気）のしかけ→事前指導・活動も含む せ：先生の動き・アシスト→意欲づけ、ほめる・認める、軌道修正】を軸に全教員で協議を重ねてきた。その結果、学級会や話し合い活動に対する意欲が向上し、話し合いが活発になってきた。引き続き児童一人一人の力を信じ、児童の主体的な行動や学びを促すことのできる特別活動の創造を目指し研究を深めていく。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本研究に取り組んだことで、教職員・児童の学校運営参画意識が非常に高まったことを実感している。市内外の実践を学ぶ機会を得、教師の視野が広がったことで、様々な教育活動の改革が行われたことは校長として大変喜ばしく思っている。また、全教職員によるカリキュラムマネジメントの推進が行われてきたことも、本研究に取り組んだ成果の一つと考える。しかしながら研究はスタートしたばかりで、今回の成果の継続とともに課題をさらに分析し、よりよいものにできるよう、次年度も本研究の継続を強く希望する。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本研究2年目は、昨年度以上に教職員・児童の学校参画意識が高まった。教職員が時間をかけて様々な教育活動を見直し、常に児童が主役になるように支援・指導の在り方を探ってきた成果だと考える。12月10日の研究発表会後に教職員から「やってよかった」という感想があったことや、登校を渋りがちな児童が【特別活動】の取り組みがある日は、元気に登校してくる姿に本研究に取り組んだよさを実感している。校長として、次年度も『子どもも大人も主人公』になれるよう研究を深めていくことを希望する。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>